

【20240820 追記】 定有堂教室「ドゥルーズを読む会（哲学を楽しむ会）」

1 日程、基本コンセプト、参考文献（従来どおり）

- ①日程 原則として隔月第1または第2木曜日 19:00～  
②基本コンセプト

「逸脱」を「楽しむ」  
＝ドゥルーズと皆さんの関心のあるテーマを往還する

2 第12回までの日程とテキスト

- ①第1回 2022年10月27日(木) 岩田のレジメによる全般説明  
②第2回 2022年12月15日(木) 『千のプラトー(上)』所収「リゾーム」  
③第3回 2023年2月9日(木)  
『意味の論理学(下)』所収「ミッシェル・トゥルニエと他者なき世界」  
④第4回 2023年4月13日(木) 『記号と事件』  
⑤第5回 2023年6月1日(木)  
綾屋紗月・熊谷普一郎『つながりの作法』(NHK出版、2010年)  
⑥第6回 2023年8月17日(木)  
『レヴィナス・コレクション』(ちくま学芸文庫、1999年)所収  
「逃走論」(1935年)  
⑦第7回 2023年10月12日(木)  
『レヴィナス・コレクション』(ちくま学芸文庫、1999年)所収  
「ヒトラー主義哲学に関する若干の考察」(1934年)  
小野寺拓也・田野大輔『ヒトラーは「良いこと」もしたのか』  
(岩波ブックレット、2023年)  
⑧第8回 2023年12月14日(木)  
渡名喜庸哲『現代フランス哲学』(ちくま新書、2023年)  
⑨第9回 2024年2月1日(木)  
木田元『反哲学史』(講談社学術文庫、2000年)  
⑩第10回 2024年4月2日(火)  
木田元『現象学』(岩波新書、1970年)その1  
⑪第11回 2024年6月13日(木)  
木田元『現象学』(岩波新書、1970年)その2  
⑫第12回 2024年8月20日(火)  
浅田彰『構造と力』(中公文庫2023年、勁草書房1983年)  
⑬第13回 2024年10月  
⑭第14回 2024年12月

3 気になる本

ア)『構造と力』など、いわゆる「現代思想」関連

浅田彰『逃走論 スキゾ・キッズの冒険』(筑摩書房1984年、ちくま文庫1986年)

佐々木敦『ニッポンの思想』(講談社現代新書、2009年)に2010年代の思想を追加

→④佐々木敦『ニッポンの思想 増補新版』(ちくま文庫、2023年) ※④は未読

宮崎裕助編『25年後の東浩紀—『存在論的、郵便的』から『訂正可能性の哲学』へ』

(読書人、2024年) 東浩紀を中心としたシンポジウム発表原稿を中心に編集

イ) ドゥルーズ＝ガタリ関連

堀千晶『ドゥルーズ 思考の生態学』(月曜社、2022年) ドゥルーズの雰囲気がよく伝わる。

伊藤守『フェリクス・ガタリの思想 生の内在性の哲学』(青土社、2024年) 中級の入門書(⊕)

福尾匠『非美学 ジル・ドゥルーズの言葉と物』(河出書房新社、2024年) ※(⊕)は未読